



こくう  
穀雨（19日）…草木の緑が一気に伸びていきます…

この時期に降る雨を百穀春雨と呼ぶそうです。穀物にとっての恵みの雨が降る季節です。気温も上がり、園庭の草木がぐんぐんと伸びて生命の躍動を感じる時期です。ところで、前回の（虹始見）の日付を19日までと書きましたが、18日まででした。お詫びして訂正します。二十四節気の日付は、年によって微妙に違います。ちなみに、来年は2月3日が立春なので、2月2日が節分となるようです。私もこれらのことは、国立天文台のホームページで調べています。また「暦生活」などのホームページも参考にさせてもらっています。

## <牡丹華 ぼたんのはなさく（4月30日～5月4日）>

穀雨の末候は「牡丹華」です。牡丹は、花の中でもとりわけ存在感がある花です。幼稚園に牡丹はありませんが、幼稚園で子どもたちにとって憧れ、太陽のような存在はやはり先生です。4月からは新規採用、異動、育休から復帰の3人を加えた6人の学級担任、私が前任園でも一緒に仕事をした頼れる主任、また保育や事務、用務を力強く支えてくれる全スタッフが、再開に向けて準備をしています。そして、家庭における牡丹・太陽はやはりお母さん、お父さんですね。

## <大人は子どもにとっての太陽>

池の奥、ツツジの隣に咲いている「ムラサキカタバミ(オキザリスかも)」も同じように日の光に合わせて生活しているようです。子どもたちは、この花たちのように、私たち大人の姿を追って、見て、まねて、学んでいきます。「学ぶはまねぶ」「親の言うようには育たないが、親がするようになる」…とも言われます。だからこそ、今こそ「笑顔で、前向きに」と言い続けているのです。



8:25 花はまだしぼんだまま…



11:02 元気に花びらを広げています



14:57 お日様をめいっぱい浴びて…



18:09 花だけでなく、葉も閉じていました



↑ びっくりするほど傾いて、とにかく太陽の光を求めているようです。屋間になるとさらに花びらを思い切り広げて、お日様を浴びて、ハチヤチョウが来るのを待っているのでしょうか。

そして、夕方になると花びらを閉じて、お休みなさい。↓

